

英語科教育法 I (第11講)

評価と言語テスト



目次

- ▶ 色々なテストの種類
- ▶ 評価の視点：診断的評価・形成的評価・総括的評価
- ▶ 信頼性、妥当性、実用性
- ▶ 模擬授業へのコメント
- ▶ CEFR
- ▶ Can-Do Statement



客観テストと主観テスト

- ▶ 客観テスト：採点者が誰であっても同じ点数が出るテストである。多岐選択式のテストや正誤法（T-F式）テストは正答が決まっています採点者には左右されない。代表的な客観テストである。一般的に採用されるその他の客観テストとしては、空所補充テスト、クローズ・テスト（テキスト中の単語を数語おきに機械的に消して作るテストで、消した部分を埋めさせる）、並べ替えテストや、誤文訂正テストなどがある。
- ▶ 主観テスト：採点者の主観で点数が与えられるテストである。例としては英作文（自由作文や制限作文）、英文要約（口頭と筆記）、英問英答（自由形式の質疑応答形式）などがある。論述式の場合、このような採点方法が行われると、採点者によって点数に差が出てくる可能性がある。そこで、入学試験などの重大な利害にかかわるテストでは、あらかじめ採点に一定の基準を設けたり、2人以上で採点して採点者全員の平均点を最終結果としたりして、信頼性を高める方法がとられている。



テストの形式とその特徴

問題形式	特徴	問題形式	特徴
真偽法	問題文が正しいかどうか記す。確率が50%である。	完成法	空所に語彙を入れさせる。下から選ぶ方法もある。
多肢選択法	採点が客観的で、大量に採点できる。	整序法	語や文を正しい順番に並べ替える。
組み合わせ法	A群とB群を互いに結びつける。	訂正法	文の誤りを直す。難易度が高い質問になる場合がある。



診断的評価・形成的評価・総括的評価

- ▶ 診断的評価：学習者の知識・技能のレベルや問題点を把握し、指導計画に生かすために行う評価である。入学時や、学年、学期の初めに行うことが多い。プレースメントテストなどがこれに該当する。英語の成績によってクラス分けを行うのである。
- ▶ 形成的評価：指導の過程で学習者の理解度や達成度、学習上の問題点を把握するために行う評価である。小テストやワークシートのチェック、生徒の活動状況の観察などが含まれる。これらの得られた情報をもとに、教員側は日々の授業の振り返りや児童・生徒へのフィードバックを行う。
- ▶ 総括的評価：一定期間の指導の後に学習者の学習の達成度を把握するための評価である。中間テストや期末テストがこれに当たる。学習者は自分の学習の結果を知り、教師は次の授業へ改善するための手がかりを得る。



熟達度テストと到達度テスト

- ▶ 熟達度テスト：言語を使って課題や作業を行うことができるかを示す指標である。一般的な英語運用能力を測定するテストで、テスト範囲は決まっていない。特定のカリキュラムや教科書を前提としていない。英検、TOEICなどのテストがこれに当たる。
- ▶ 到達度テスト：到達度とはこれまでの授業の内容が習得されたかを示す指標である。学習した知識や技能をどの程度身につけたかを測定するテストであり、テスト範囲を決めて行う。学校の定期テストなどがこれにあたる。



集団基準準拠テストと目標基準準拠テスト

- ▶ 集団基準準拠テスト：ある学習者の集団全体の中での相対的な位置関係を調べることが目的である。いわゆる「相対評価」に基づくテストであり、入試や学力テスト、習熟度別クラス編成等に用いられる。レベル分けテストがこれにあたる。模擬テストなどでよく聞かれる偏差値とは、受験者全体の得点が正規分布曲線を描いているときに、ある特定の受験者がその集団の中でどの位置にあるのかを示す数値である。
- ▶ 目標基準準拠テスト：ある学習者が、設定した到達目標に照らしてどの程度の位置にいるかを調べることが目的であり、学習者を他人と比較することが目的ではない。到達基準を前もって設定して、その到達基準に達したか否かを測定するいわゆる「絶対評価」に基づくテストである。



信頼性、妥当性、実用性

- ▶ 信頼性 (Reliability)
- ▶ テストは測定すべきものをいつも安定して測定するものでなければならない。同じ能力を測定しようとしているのに、今日実施したテストの結果と、数日後に実施した同じテストの結果が著しく異なっていれば、それはテスト自体の信頼性が低いということを意味する。
- ▶ 妥当性 (Validity)
- ▶ 妥当性とは、テストが測定すべきことを正しく測定しているかどうかの度合いを示す。リーディングの到達度テストで読解力を対象としているのに、単語の知識を試すテストだけならば、妥当性は低いと考えられる。
- ▶ 実用性 (Practicality)
- ▶ その作成、実施、結果の分析にあたり、実用的かつ実施可能でなければならない。例えば、スピーキングテストをクラスの生徒全員に実施する場合、一人5分のスピーチを担当者一人で行うのは困難かもしれない。



模擬授業へのコメント（1）

- ▶ 授業の仕方
- ▶ 声は通るか。
- ▶ 目は子どもたちを見ているか。
- ▶ 自信ありげな態度か。（授業の下調べをしていないと自信がない態度になり、すぐに子どもたちに見抜かれてしまう）
- ▶ 手などを動かして、変化をつけているか。
- ▶ 説明や指示が明瞭か。
- ▶ 教師は教壇の上でパフォーマンスを行う俳優(actor, actress)である。



模擬授業へのコメント（2）

- ▶ 授業の内容について
- ▶ 冒頭に挨拶や、ice-breakが行われているか。
- ▶ 指導案は適切に書かれているか。
- ▶ 時間の配分は適切か。
- ▶ 子どもたちのレベルにあった授業であるか。
- ▶ CDやDVDなどを利用しているか。
- ▶ 教員側からの一方通行ではないか。
- ▶ 子どもたちに発言の機会を与えているか。
- ▶ 子どもたちにペアワークやグループワークにしているか。
- ▶ 子どもたちが飽きないように適切に内容が変化しているか。



CEFR の特色

- ▶ CEFRとは、Common European Framework of Reference for Languages
(ヨーロッパ言語共通参照枠)

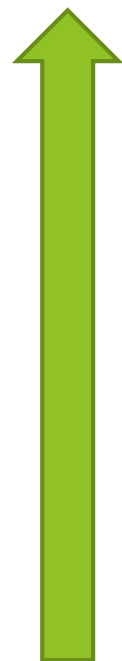
ヨーロッパで開発された、ヨーロッパ全体で使われる語学教育で学習者のレベルを評価するための基準である。

近年日本でも影響を与え始めている。



CEFRによる全体的な尺度

- ▶ 熟達した言語使用者 C2
- ▶ C1
- ▶ 自立した言語使用者 B2
- ▶ B1
- ▶ 基礎段階の言語使用者 A2
- ▶ A1



Kiso Eligo 1

基礎英語 1

講師 高本裕迅



別冊付録

夏休み問題集
パワKISO



今月のテーマ
夏期復習シリーズ
(4月～7月の内容から抜粋して再放送)

インターネットで番組が聴けます!

NNKネットラジオ
らじる★らじる

ラジオ第2放送

月曜～金曜 午前 6:00～6:15
再放送/月曜～金曜 午後 6:45～7:00
再放送/月曜～金曜 午後 9:00～9:15

CD単体での発売はありません。
「基礎英語1 CD付き」をご利用ください。



Can-do Statement (能力記述文)

- ▶ A2の例
- ▶ ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係のある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。
- ▶ 簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。
- ▶ 自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。



課題

- ▶ 自分が受けてきたテストをいくつか挙げて、それがどのようなものであったか説明をせよ。
- ▶ 小学生5年の児童に英語のテストをする場合には、どのようなテストにした方がいいのか。
- ▶ テストの信頼性、妥当性、実用性とは何か。

